

【神戸大学】令和8年度高大連携特別講義（公開授業）

高大連携特別講義2

時期：令和8年8月3日（月）

場所：六甲台第二キャンパス 神戸大学百年記念館 六甲ホール

時限	1 時限（10:00～11:00）
講義題目	歴史を考えるとはどういうことだろうか：インドの歴史のひとつから
学部	文学部
講義担当者	真下 裕之（ました ひろゆき）
[ 講座の目標等 ]	
大学で歴史を学ぶときには、たくさん覚えること（事項の暗記）はさほど重要視されません。むしろ考えることが必要になります。では歴史を考えるとどういうことなのでしょう。そして、過去の出来事、それも外国の出来事を考えることは、今の社会を生きる私たちにとって、いったいどんな意味があるのでしょうか。この講義の目標は、インドのある建造物の歴史についての考え方をとおして、大学における歴史研究の一端を知ることです。	
[ 講座の内容・計画等 ]	
インドの王朝ムガル帝国の時代に建設されたタージ・マハルの歴史をわかりやすく説明したうえで、研究者がその歴史を考えるとどうなるのか、説明していきます。	
[ テキスト・教材・参考書等 ]	
特にありません。必要な資料は当日配布します。	
[ 履修上の注意 ]	
「世界史探究」を履修していなくても、この講義の内容は理解できます。	
[ 高校生へのメッセージ等 ]	

## 【神戸大学】令和8年度高大連携特別講義（公開授業）

### 高大連携特別講義2

時期：令和8年8月3日（月）

場所：六甲台第二キャンパス 神戸大学百年記念館 六甲ホール

時限	2時限（11:10～12:10）
講義題目	学校は、私たちが自由にするのか？
学部	国際人間科学部
講義担当者	田中 伸（たなか のぼる）
[ 講座の目標等 ]	
<p>本講義では、教育学および、担当教員が専門とする社会科教育学や市民性教育の基本的な考え方を学び、学校での学びが個人の成長だけでなく、社会や民主主義のあり方と深く関わっていることを理解することを目指す。講義では、自分自身の学校経験を振り返りながら、「なぜ学ぶのか」「教育は社会にどのような役割を果たすのか」という問いについて考えてゆく。また、学校教育で行われている社会科の授業が、知識を覚えるだけでなく、社会の問題を多面的に捉え、他者とともに考え、よりよい社会をつくるための学びである一方で、その教科が権力性や暴力性を内在している可能性についても検討する。</p>	
[ 講座の内容・計画等 ]	
<p>本講義では、まず教育学が扱う基本的な問いとして、学ぶこと、教えること、学校の役割について紹介する。そのうえで、担当教員が専門とする社会科教育学や市民性教育の視点から、社会を理解する力、市民として考え判断する力、対話を通して他者と学ぶ力について概説する。講義では、身近な学校生活や社会科授業の具体例を取り上げながら、教育が個人と社会をどのようにつないでいるのかを考える。最後に、現代社会の課題と学校教育の関係をふまえ、これからの教育や学校、学びに求められる視点を考察する。</p>	
[ テキスト・教材・参考書等 ]	
特になし	
[ 履修上の注意 ]	
本講義は、演習的な要素も含みます。積極的に議論へ参加してください。	
[ 高校生へのメッセージ等 ]	
<p>社会の「当たり前」を一旦疑い、そして考える。本講義では、そのようなマインドを獲得して欲しいと考えています。是非、一緒に社会について議論しましょう。</p>	

【神戸大学】令和8年度高大連携特別講義（公開授業）

高大連携特別講義2

時期：令和8年8月3日（月）

場所：六甲台第二キャンパス 神戸大学百年記念館 六甲ホール

時限	3 時限（13:30～14:30）
講義題目	海事分野のカーボンニュートラル
学部	海洋政策科学部
講義担当者	杉村 佳寿（すぎむら よしひさ）
[ 講座の目標等 ]	
<p>世界全体がカーボンニュートラルに向かう中、産業によっては大きな課題に直面する場合もある。本講義では、海事分野のカーボンニュートラルの内容、特徴、実現に向けた課題について理解した上で、実現の方法を自ら考えてみることを目指す。また、そのために必要な知識、学問、研究等について考える契機とすることを目標とする。</p>	
[ 講座の内容・計画等 ]	
<p>本講義では、以下の内容を含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カーボンニュートラルとは？</li> <li>・環境政策の難しさ</li> <li>・海事分野の脱炭素対策</li> <li>・対策実施のための実務的課題</li> <li>・ブルーカーボンとは？</li> <li>・カーボンニュートラルに向けたロードマップ</li> </ul>	
[ テキスト・教材・参考書等 ]	
担当教員作成資料を使用	
[ 履修上の注意 ]	
特になし	
[ 高校生へのメッセージ等 ]	
<p>世界的に重要な環境問題である気候変動とその対策については様々な学部で学べるが、海洋政策科学部でのアプローチと社会実装を意識した研究内容を紹介することとしている。</p>	

【神戸大学】令和8年度高大連携特別講義（公開授業）

高大連携特別講義2

時期：令和8年8月3日（月）

場所：六甲台第二キャンパス 神戸大学百年記念館 六甲ホール

時限	4 時限（14:40～15:40）
講義題目	法学と法実務—刑事訴訟法を題材に
学部	法学部
講義担当者	樋口 拓磨（ひぐち たくま）
[ 講座の目標等 ]	
<p>本講義の目標は、法の形成・運用の過程では、法学と法実務とが相互に影響しあっている、ということ、具体的に理解することです。</p> <p>この目標を達成するために、本講義では、担当教員の専門分野である刑事訴訟法を題材として取り上げます。「刑事訴訟法」は、刑事事件が発生したときに、犯人であると疑われている人（被疑者・被告人）について、国家が、刑法に定められた刑罰を科することができるか否かを確かめるための手続—「刑事手続」といいます—に関する法を取り扱う分野です。刑事訴訟法においては、国家刑罰権を実現するという要請と、被疑者・被告人の権利・利益を保護するという要請とを、どのように調整するか、というのが、重要な関心事となります。そのために用意されている法律のルールが具体的に形成・運用されていく過程で、法学・法実務のそれぞれが、どのような作業を行い、また、どのような役割を果たしているのか、ということ、考えてみたいと思います。</p>	
[ 講座の内容・計画等 ]	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 刑事訴訟法とは何か</li> <li>2 刑事訴訟法197条1項の解釈をめぐる問題</li> <li>3 まとめ</li> </ol>	
[ テキスト・教材・参考書等 ]	
当日に配布します。	
[ 履修上の注意 ]	
特にありません。	
[ 高校生へのメッセージ等 ]	
<p>法学は、憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法の7つの基本的分野のほかにも、労働法、知的財産法、経済法といった専門的分野をも対象とする、裾野の広い学問分野です。それは、法が、社会の広い領域にわたって、様々な利害関係を調整する役割を期待され、また、現実には担っていることの反映であるとも考えられるでしょう。法学は、そのような法がどうあるべきかを、徹底的に考える、とてもエキサイティングな学問です。この講義を通じて、そのことを少しでも実感していただけたら、とても嬉しく思います。</p>	